

ノーム通信87 2003-9

〒130 0026 東京都墨田区両国4-30-4-1109



過激に暑い日々後に急に寒い日がやってきましたがノームは相変わらずです。先週はネパールから来ていたガイドが泊まっていたり、作文集の編集があったりでなんとなく落ちつかなかったがその分今週は本腰を入れてたまった作業をやらなければいけない。

沢山の人が話して行ったが、なかなか自然体で話すというのは出来ないものだ。適度な緊張は話しに花を与えるし、どうやって相手の心の奥を引き出そうかと言葉の端はしにまでわからないように気を張って話すのは、気のおけない友人の間でも互いに良い時間を過ごすには必要だけれど、その緊張が自分を守るためのものだけだ

とつまらないものになってしまうし、その人がいやしく見えてしまって困る。

急に大阪からバスで友人が来て、一晚騒いでいった。普通の人が何時間もの演説をしなさいと言われるとちょっと無理だと思っけれども、少し酔って肩の力を抜いて話していると一晚なんてすぐにたっしてしまってそれでも話し足りない。話し足りないまま眠くなってグラスを握ったままうとうとし始める、そうなったら寝袋を放り投げれば勝手にその辺で寝てしまうし、後は朝になったらまたしみじみと話せばいいのだ。そんなひょうひょうとした飲み方もいい。

安飲み屋で聞こえるともなく聞こえてくる会話を聞いていると、一番多いのは会社の同僚や上司がいかに仕事が出来ないかという話で、だいたい20代から50代までまんべんとなくいる。次は、ただおかしい話しを単発に互いに繰り出してはけたたましい笑いに包まれる組で、ほとんど20から30代。こっちのほうは時として人間の言葉に聞こえなくて、動物が鳴いているように感じるときもある。近況や、野球やゴルフの話しをとりとめもなく続けるのも差し障りなく30代以降まんべんとなく多い。そんな中において「話す」という行為はいったい何なのだろうかと考えている。昼間の圧迫から解きほごされる儀式や、同じ群ということを改めて意識しなおす儀式かもしれない。人という動物は群れているから話すことが必要になり、そのルールも生まれてきたのだろうと思うが、そんな中で、ただ時間をうっちゃる為に酒を飲み、意味のない言葉を叫び、言葉を蒔いたことだけで少し安心して寝てしまっていないだろうか。

以上のようなことを駅近くのくたびれたカウンターに座ってビールを飲みながら考えていた。ちなみに刺身380円、レンコンのはさみ揚げ380円、チジミ380円、ポテトサラダ250円、生280円であり、目の前には福助足袋のブリキの看板が裸電球を胎色に光らせてこっちを見ていた。混沌としていく意識の中からすくい上げた言葉の断片を紙片に一つ二つと拾い上げながら、人が話すという事についてもう少し明確にしてみたいと空回りしながらも考えていた。一人で飲む時というのは自分との逃げ場のない対話の時かも知れないとその時思った。

子供達の作文集「まなざし」が190号になった。沢山の人が気長につきあってくれたせいだ。感謝しています。来月の編集は10月18日です。

<http://www.interq.or.jp/japan/gnomes/gnomes1>
TEL/FAX 03-5600-0195 高村 哲 GnomesJpn@aol.com